

問屋組合員の証

株式会社榎戸材木店
会長 榎戸正人

会社の部屋の整理をしていたら、真っ黒に陽に焼けた古い板が出て来ました。なんだこれは。でも削れば日曜大工には使えるかと裏返してみてもビックリ！東京木材問屋協同組合の昔の表札と言うか、看板でした。懐かしい……

今では問屋組合の看板を店先に吊るしている会社はほとんど見ません。しかし私が生まれた70年ほど前には木場のどこの材木屋も店の入り口には自社の看板と並んで問屋組合の看板が吊るされていました。

若い人には信じられないでしょうが、当時は都内で材木屋を営むには東京木材問屋協同組合に加入し、組合員である証として店先に看板を吊るす必要があったのです。昔は米屋もタバコ屋も認可を取らないと営業できませんでした。東京木材問屋協同組合に加入することで、木材業の認可が得られたのです。認可を取らないと、もぐりの材木屋だと言われてしまいます。

と言っても、この話は小学生の頃に番頭さんから聞いた話で、榎戸材木店は由緒ある正当な店だと言いたかったのかも知れません。看板なしで営業していたからといって処罰されたわけではないので法的な根拠はなく、単に木材業者の申し合わせ程度のものだったのだらうと思いますが、いずれにしてもこの問屋組合の看板は重い意味を持っていました。

当社も新木場に移転してからも事務所を改装する前までは榎戸材木店の看板と並んで、入り口の横に吊り下げられていました。改装に伴い取り外されて、保管されていたのでしょうか。表面にサンダーを掛けて綺麗にしてまた飾ろうか、考えています。むしろ、この黒くなった古さに価値があるので、このまま飾った方が良いのかもしれない。

当社は意地になって今後100年は新木場で材木屋を続けるつもりなので、この看板こそは榎戸材木店の歴史を物語る貴重な品です。会社同様、守り続けていかななくてはと思います。

そのためにも孫にもこの看板を見せて、もう少し大きくなったらその由来や貴重なものであることを教えていかななくてはなりません。削って自宅のまな板にでもされたらご先祖様に申し訳ない。

はたして組合員の材木屋の何件にこの看板が残っているのかわかりませんが、飾るのであればこの看板の由来や貴重なものであることをレーザー加工で説明書きを作成して、看板の横に掲載したいものです。街中でも歴史的に貴重な遺産の横には由来を書いた掲示板が飾られています。古い木場から続く材木屋にとって、誇るべき遺産だと信じています。もし、まだお持ちの材木屋さんがいたら、入り口横に飾るようにしましょう。

